

# 建築人

2025

3

Osaka Association of Architects & Building Engineers  
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.729





# 建築人

2025.03 No.729

Osaka Association of Architects & Building Engineers  
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「かぜのこ(放課後デイサービス)」2023年

第16回 建築人賞奨励賞 受賞作品

設計：井上久実設計室

施工：ヒロタ建設

撮影：冨田英次

切妻の屋根を持つ、相談室・広場・プレイルーム+ロフトを道路から、路地状のアプローチに沿って並べました。それぞれの屋根下でのアクティビティに応じた天井高さを設定することで、連続した三角屋根が“高い・低い”のリズムで繋がりました。

真ん中の外広場は屋根だけの外部空間であり、奥に深い敷地の中で、ウチとソトが混じり合うことで、子供にとっての心地良さを目指しました。

2 大阪浪漫

4 Gallery 建築作品介绍

「Nakanoshima Cross」

設計：大林組大阪本店一級建築士事務所

施工：大林組・フジタ建設共同企業体

「K-SOHO小路」

設計：コンパス建築工房

施工：ヒロタ建設

「OCCHIO」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：ケイ・アイ・エス

7 シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 記憶の建築

「土浦亀城邸」1935年竣工 / 2024年復原・移築

復原・移築された「白い箱」に思う / 松隈 洋

建築人 No.729 2025年3月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央(編集人代表)

編集人：武藤優哉 石上芳弘 荻窪伸彦 河崎太平

昇 勇 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年3月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

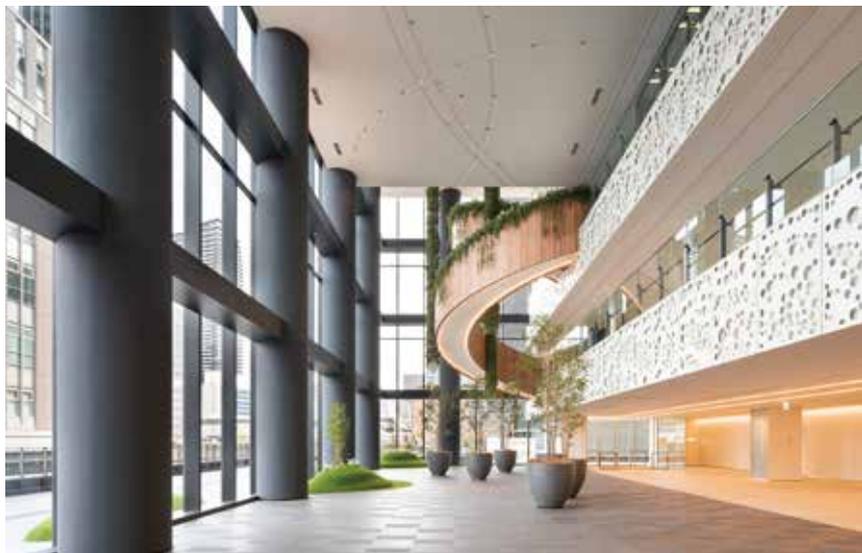
tel. 06-6947-1961

## 大阪浪漫

(1986年・新世界)

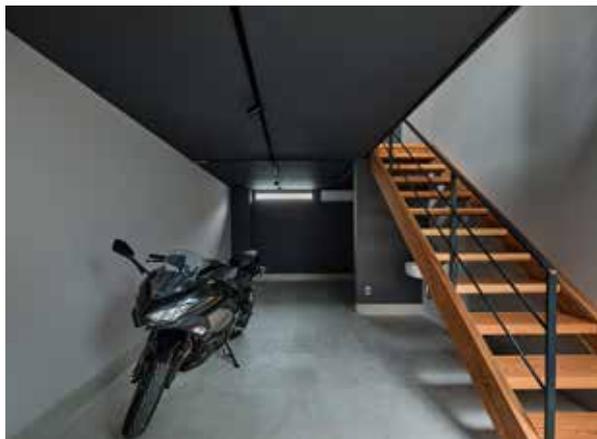
写真・文 喜多 章

1986年の新世界、通天閣が真正面に存在するよく見るアングルだが、当時は外国人や観光客の姿をほとんど見かける事が無かった。学生の頃美章園にアパート借りていたので、この辺りや難波周辺をよく徘徊した。そんな想いを感じながらシャッターを切ったのだろう・・



大阪市中之島に建つ、国内初の再生医療に関わるメディカルコンプレックスである。未来医療の「創造」「実践」「共有」とそれらの知の循環をコンセプトとし、医療に関わる様々な企業のオフィスやラボ等からなる縦連窓のR&Dセンター、病院・クリニック等が入居するバルコニー及び横連窓のMEDセンター、会議場やラウンジからなるガラスファサードのフォーラムの3つのエリアで構成されている。外装は各用途に求められる機能性と多種多様な設備要望への対応を満たす窓形状とし、シンプルで統一感のある外観としてまとめた。2階に計画した一覧性の高い吹抜空間は、人と情報をつなぎ様々な創造を活性化させる空間として施設の象徴となっている。

所在地：大阪府大阪市  
 用途：事務所・病院・集会所他  
 竣工：2024.01  
 構造規模：鉄骨造  
 地下なし  
 地上17階  
 敷地面積：8,600.00㎡  
 建築面積：5,162.24㎡  
 延床面積：54,987.02㎡  
 写真：ヴィブラフォト



密集する市街地の中、将来とも周辺環境に左右されないように、外周部を閉じ内部に開放する共同住宅とした。車のアクセスが難しい狭い行き止まり道路のため、バイク愛好家やアトリエなどを想定する住居タイプとしている。中央通路の上部はバルコニーと吹抜けを交互に配置し、吹抜けより1階通路と居室の採光を確保。1階土間室は入居者が空間をフレキシブルに区画できるように、天井にカーテンレールを縦横に設置、壁面にはシステムレールによる可動棚を設置した。2階は天井の高いワンルーム空間で、水回り上部をロフトとし、バルコニーは高い壁で互いのプライバシーが確保されている。

所在地：大阪府大阪市  
用途：共同住宅  
竣工：2024.09  
構造規模：木造2階建て  
(北棟南棟とも)  
敷地面積：365.26㎡(北棟)  
310.61㎡(南棟)  
建築面積：280.67㎡(北棟)  
233.83㎡(南棟)  
延床面積：490.14㎡(北棟)  
404.12㎡(南棟)  
写真：岡田大次郎



計画地は、二面道路が面する角地に位置しており、石積み擁壁により敷地は道路よりも約3m高い位置にあった。外観は下層をコンクリート打放し仕上げとし、擁壁と一体的な重量感のある形とし、上層には約2m持ち出された浮遊感のある白い箱が乗り、フロストガラス手摺で道路からの視線は遮りつつ、内部は周囲から解放された見晴らしを獲得している。周りを一望する目(OCCHIO)のような、アイコン的な外観は地域のランドマークとなっている。エントランスは深い軒で陰影をつくり、落ち着いたアプローチとし、その先の玄関正面には3層吹抜のトップライトから光を受けたオブジェのような片持階段が、上階へと誘う。

所在地：兵庫県芦屋市  
 用途：専用住宅  
 竣工：2024.03  
 構造規模：木造+RC造  
 地下1階  
 地上2階  
 敷地面積：410.76㎡  
 建築面積：146.90㎡  
 延床面積：356.14㎡  
 写真：松村芳治

# 大屋根リング

世界最大級の木造建築



撮影：仲和

「多様でありながら、ひとつ」という本万博の理念を表わす

大阪・関西万博のシンボルとなる建築物

大屋根リングは、世界最大級ともいえる内周直径が約616m、外周直径が約674mで幅約30m、全長約2kmにわたる圧倒的なスケールの木空間で、大阪・関西万博の会場のシンボルとなり、会場全体をつなぐ回遊動線です。会場内の多様な場所性・活動・人々を受入れ、それらを結び付ける建築として「多様でありながらひとつ」を体現します。

リングの大屋根の下（グラウンドワーク）は、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用されます。また、リングの屋上（スカイワーク）からは会場全体を様々な場所から見渡すことができ、さらにリングの外に目を向ければ、瀬戸内海の豊かな自然や夕陽を浴びた光景など、海と空に囲まれた万博会場の魅力を楽しむことができます。

日本の木文化を表象する柱・梁による伝統木造と最先端の木造技術を融合させた工法（現代の貫構造）とCLT架構の床・屋根により大屋根架構を実現しています。伝統工法を現代の技術でアップデートさせ、つくりやすく・解体・リユースのしやすい架構形式とすることで、都市木造化の促進や持続的な森林保全など、環境と共生する循環型社会へと繋がる建築を日本から世界へ発信することを目指しました。



## 大屋根リングの木材活用の発信

リングに用いた木材は、積極的に純国産材を採用することでエンボディードカーボンの削減を計り、カーボンニュートラルとネイチャーポジティブ、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の寄与に取り組んでいます。解体・リユースのしやすさを考慮したCLTの床、現代の貫工法を採用し、サーキュラーエコノミーへの寄与に取り組みました。

約6,300㎡の国産CLTの調達（日本国内のCLT生産量約15,000㎡の1/3以上）、国産集成材柱、梁（ヒノキ、スギ）約11,690㎡、輸入集成材オウシュウアカマツ約9,350㎡の木材利用で、総計約27,360㎡となる木材を国内木材加工とし、大規模木造建築のサプライチェーンの試行、実証としました。（大林組）

# 動静レポート

## 会長動静

- 1/26 命を守るひと部屋シンポジウム  
(北海道・札幌)
- 1/28 摂津市長面談  
大阪府建築士事務所協会交礼会
- 1/29 貝塚市長面談  
近畿会長会議、近畿建築士会協議会
- 1/30 日本建築士会連合会 教育事業・  
本委員会
- 1/31 島本町長面談
- 2/4 日本建築士会連合会 財政健全化  
TF 会議  
健康・省エネ住宅国民会議面談
- 2/5 大阪府収用委員会  
忠岡町長面談、田尻町長面談  
日本建築センター理事長面談
- 2/6 豊野町長面談、能勢町長面談
- 2/7 健康・省エネ住宅国民会議面談
- 2/10 国際委員会意見交換
- 2/12 岬町副町長面談
- 2/13 大阪府収用委員会  
熊取町長面談  
健康・省エネ住宅国民会議面談
- 2/14 泉大津市長面談  
正副会長会議、運営会議
- 2/18 河南町長面談、千早赤阪村長面談  
全日本不動産協会堀田本部長面談
- 2/19 理事会
- 2/20～2/25 タイ研修旅行

## 会長・役員による大阪府及び市町村訪問

◎ 1/29 貝塚市・酒井了市長と面談



左より/牧田専務理事、田端委員、酒井市長、徳岡副会長、岡本会長

◎ 1/31 島本町・山田紘平町長と面談



左より/牧田専務理事、山田町長、岡本会長、横田副会長、春岡委員

◎ 2/5 忠岡町・杉原健士町長と面談



左より/田端委員、上田副会長、杉原町長、岡本会長、  
牧田専務理事

◎ 2/5 田尻町・栗山美政町長と面談



左より/上田副会長、栗山町長、岡本会長、牧田専務理事

◎ 2/6 豊能町・上浦登町長と面談



左より/牧田専務理事、横田副会長、上浦町長、岡本会長、昇委員

◎ 2/6 能勢町・岡田正文町長と面談



左より/牧田専務理事、横田副会長、岡田町長、岡本会長、昇委員

2/12 岬町・中口副町長と面談



左より/佐々木理事、藤井課長、牧田専務理事、中口副町長、  
岡本会長、上田副会長

◎ 2/13 熊取町・藤原敏司町長と面談



左より/北條理事、牧田専務理事、藤原町長、岡本会長、石貫副会長

◎ 2/14 泉大津市・南出賢一市長と面談



左より/牧田専務理事、南出市長、岡本会長、横田副会長

◎ 2/18 河南町・森田昌吾町長と面談



左より/牧田専務理事、徳岡副会長、江島副町長、森田町長、  
岡本会長、五嶋委員

◎ 2/18 千早赤阪村・菊井佳宏村長と面談



左より/牧田専務理事、徳岡副会長、菊井村長、岡本会長、  
五嶋委員

## 2 月度 理事会報告

日時 2月19日(水) 16:00～18:00

場所 本会・東会議室

出席 理事 43/46名 監事 2/2名

### (1) 入退会の承認

(人)	1月	入会	退会
正会員	2,169	4	4
準会員	28	0	0
特準会員	21	1	0
賛助会員	146	1	1
計	2,364	6	5

### (2) 会計報告

(円)	1月計	累計
収入	9,695,097	120,486,404
支出	9,483,794	105,716,906
差引	211,303	14,769,498

上表の当期経常増減明細を承認しました。

### (3) 令和6年度決算見込みおよび令和7年度予算案

令和6年度決算見込みは約580万円の黒字で推移していることを報告した。令和7年度予算案は収支総額16,420万円、差引額0円として承認した。

### (4) 役員候補者選考委員会の報告

令和7・8年度役員候補者選考委員会で承認された理事候補者について、定時総会に諮ることを承認した。

## マンション「未来年表づくり」への取り組み

日程：令和7年2月9日（日）  
会場：茨木市内某マンション  
参加者：20名

大阪府建築士会は、府内の行政と連携し分譲マンションの管理組合支援に取り組んでいます。私たちがマンション支援に長く関わってきた中で、支援内容の変化を実感しています。

昨年度、茨木市と当会が協定を結びました。背景として高経年マンション問題の顕在化に備え、マンション管理適正化法の改正と議論されている区分所有法の改正があります。より踏み込んだ取り組みとして、今回取り組んだ分譲マンションの「未来年表」ワークショップ出前講座について報告させていただきます。分譲マンションの「未来年表」ワークショップでは参加された区分所有者が疑似家族となって家族の将来計画と合わせてマンションの未来を考えます。疑似家族となることで、それぞれの家族が、異なった目線で将来を考えることとなります。様々な家族構成の集合体であるマンションで合意形成を行う上で、自身

と異なる考え方を持つ区分所有者への理解が重要になります。異なる考え方への理解をするきっかけづくりとして有効な手法です。

高経年マンションでは、ハード面として安全性の確保（耐震）、快適性の確保（省エネ、バリアフリー）、ソフト面では持続可能な運営（管理組合、理事会運営）が大きな課題となっています。少子高齢化が進み、多大な費用が必要となるハード面への取り組みに消極的である上に、高齢化による維持管理の担い手の不足も顕在化しています。区分所有者自身も課題を漠然と理解していますが多様な世代と生活環境の中で、課題に対する方向性を組み立てるための合意形成を行うことが難しいと諦めている方が大半です。

現在、私たちが取り組む管理組合支援はハード面が中心ですが、長寿命化への取り組みが進んでいません。今後は管理組合が区分所有者に対し必要な情報を共有するための支援

神保 勲（大阪府建築士会 監事）



も必要であることを改めて認識しました。出前講座の目的は、区分所有者どうしが、マンションの未来を話し合う「場づくり」と位置付けています。このような「場づくり」も私たち建築士の重要な役割であると認識しました。また多様な課題に取り組むためには協力いただいた（一社）こうべ団地みらい創生機構のような多様な領域の専門家があつまる組織との協同作業の必要性を感じる機会となりました。



（一社）こうべ団地みらい創生機構 未来年表事例より

## 建築相談室から (93) 分譲マンション第三者管理を考える 2

橋本頼幸（建築相談委員会幹事）

今回は前回に引き続き第三者管理について掘り下げていきたいと思います。

### きっかけとなった面接相談

分譲時から管理会社が第三者管理を行うマンションの地下ピットに湧水があり、悪臭がするので対応や問題解決について分譲会社や施工者と話し合いたいが、管理会社が図面の持ち出しやコピーをさせてくれず、取り合ってもらえないとの相談。

### この相談の問題点

この相談では、管理組合が無いことが今後大きな問題に発展します。面接相談では管理組合設立についても簡単に説明はされていましたが、前回掲載の第三者管理3パターンという「3.理事会なし／「管理者 理事長」(第三者が管理者に就任／理事長がいない)」と考えられ、区分所有者が個別に管理会社（＝管理者）と交渉するには限界があります。また、この管理会社の第三者管理と

の契約解除をしようとすると、区分所有者総数、もしくは議決権総数の5分の1以上の賛成を得て、臨時総会の開催を請求し総会決議を得る必要があります。それは分譲時から一度も管理組合活動をしていない区分所有者にとっては容易なことではありません。

### 第三者管理がもたらす新たな問題

上述のように管理会社が理事会のない管理者になってしまうと実質マンションを支配することができます。従来の管理委託契約では、管理組合（発注者）と管理会社（受注者）での緊張感が保てるのに対して、発注者も受注者も管理会社という形に成ります。管理運営だけでなく、日々の修繕工事や計画的な大規模修繕工事なども我田引水することは容易であり、監督機能も発揮できなくなる恐れがあります。これは「理事会あり」の第三者管理1・2パターンでも同様です。空き住戸を管理会社が購入してしまえば区分

所有者にもなってしまう管理組合・理事会での影響力を大きくすることが容易になります。

### 組織が健全であるために

従来から、理事長や理事会が長期間同じ人が担っており不正が働くケースや管理会社のフロントや管理員がマンションのお金を横領するという話はよくあります。同じ構図ではありますが、第三者管理を担う外部専門家、特に管理会社には「ガバナンス」いわゆる、組織が健全に運営するために必要な管理体制や仕組みが求められますが、あくまでもこれは性善説にたった話です。誰かがどこかが悪意を持ってばすぐにその仕組みは崩れます。一方でマンション管理が素人集団の管理組合にとって荷が大きくなっていることも事実です。分譲マンションの管理を他人事にするか我が事にするか、大きな分かれ道に来ているように感じます。

## 建築士会からのお知らせ

### 既存建築物耐震診断等の評価

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

(業務内容)

耐震診断報告書や耐震補強計画書の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料が10%割引となります。

### 令和6年度監理技術者講習

3/7 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。

日時 3/7(金) 8:55~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

### 既存住宅状況調査技術者講習

更新講習3/12 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士だけに認められる業務です。

令和3年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限のため更新講習をご受講ください。

日時 3/12(水)

13:30~17:00(DVD講習)

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

申込 日本建築士会連合会HPより

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyocho.html>

### 建築相談委員の新規・更新スキルアップセミナー

3/15 CPD2単位予定

建築相談を新規にやってみようと言う方や既に建築相談委員の方々に、建築相談委員としての注意点や基礎知識を学んでいただく勉強会を開催します。建築相談活動を継続し、より充実するために、広く活動を担っていただける方を募集すると共に、相談委員同士顔を合わせデスカッションする中で、スキルアップ出来ればと思います。

日程 3/15(土) 15:00~17:45

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 無料

申込 右記QRコードより



### 令和6年度 建築士定期講習

3/27 CPD6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和3年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼DVD講義

日程・会場・定員

3/27(木) 大阪府建築健保会館 90名

運営：大阪府建築士事務所協会

(注) 定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15~17:00

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 下記URLよりお申込みください。

インターネット申込みができない方は、大阪府建築士会HPの定期講習の案内をご確認ください。

[https://www.jaeic.or.jp/gyomu/off\\_teiki/index.html](https://www.jaeic.or.jp/gyomu/off_teiki/index.html)

### 阿倍野区昭和町界隈に学ぶ

～国登録有形文化財「寺西家阿倍野長屋」及び町家の活用と展望について～

3/7 CPD3単位

大正から昭和にかけて、大阪市の経済発展とともに急増する人口に対応すべく、町割りには密度高く長屋を建築することを前提とした寸法で計画され、日本で先駆けて土地区画整理事業が行われた地区である。戦火の被害が少なかった昭和町界隈には、時代の変化に応じながら現在も多くの長屋が残されている。昭和100年となる2025年の今、近代長屋として全国初の国登録有形文化財となる「寺西家阿倍野長屋」と昭和町界隈のまちなみを通して、町家の活用と展望について学び考えます。

日時 3/7(金) 13:00~17:00

会場 寺西家住宅(国登録有形文化財)

定員 30名(申込先着順)

受講料 2,000円

主催：(公社)兵庫県建築士会

共催：(公社)大阪府建築士会

### 今さら聞けないシリーズ(設備の維持管理編)

テクニカルセンター(メンテナンス技術研修センター)昇降機のメンテナンス・実機 見学講習会

3/10 CPD2単位

本企画は建築士、設計者として知っておきたいメンテナンスの種類、必要性、法規等の講習会です。

当日はスケルトン昇降路により通常では見ることのできない部分も見学し学んで頂けます。更に進化した小荷物専用昇降機のIoT連携についての説明もごさいます。皆様のご参加をお待ちしております。



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。  
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール [info@aba-osakafu.or.jp](mailto:info@aba-osakafu.or.jp)  
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

日時 3/10(月) 13:30~16:00  
 会場 クマリフト(株)R&Dセンター及び  
 テクニカルセンター  
 協力・講師 クマリフト(株)  
 テクニカルセンター技術員  
 定員 24名(申込先着順)  
 受講料 建築士会会員1,000円  
 一般2,000円

対象の方が随伴される施主  
 定員 20名(申込先着順)  
 受講料 建築士会会員50,000円  
 一般55,000円

なっています。国土交通省は、平成28~30年度に行った実態調査結果を踏まえ、令和元年12月に地方公共団体や関係団体に対して、調査者・検査者等を対象に適切な調査・検査の実施について周知を行うこと等を求める通知を行っています。

本講習はこの要請を踏まえ、(一財)日本建築防災協会が定期調査に従事する特定建築物調査員、建築士等を対象に、実態調査で得られた事例、最近の事故事例などを示しつつ、国土交通省告示に基づく調査業務に即した実務的かつ具体的な事項を示した「スキルアップテキスト」を基に令和3年度から実施しているものです。

日時 4/23(水) 13:30~17:55  
 詳細 一般社団法人大阪府建築士事務所協会  
<https://www.oaaf.or.jp/>

## BIMセミナー

建築設計におけるデジタル技術の活用手法  
 3/28 CPD3単位

デジタル技術に関する基調講演とパネルディスカッションを行い、BIM活用の最先端について、BIM運用の目的、実情・実態、コスト等々「ぶっちゃけトーク」を交えながら議論していただきます。会場からも質問いただきます。奮ってご参加ください。

日時 3/28(金) 受付13:00~  
 会場 大阪府建築健保会館 6Fホール  
 受講料 建築士会会員2,500円  
 後援団体会員3,500円  
 一般4,500円  
 学生1,000円

定員 90名

## その他のお知らせ

まちあるきプロジェクト  
 「ぶらり大阪“景観”ウォーク西成区編」  
 3/15

普段見慣れている風景について景観を意識しながらもう一度眺め直し、ぶらぶらと歩きながら建築士や参加者の方々と意見を交換し合い、今まであまり注目されていなかったものを含め、良好な景観を探しながら、大阪の受け継ぎたい、広げていきたい景観を見て歩く催しです。

日時 3/15(土) 13:00~17:00  
 詳細 一般社団法人大阪府建築士事務所協会  
<https://www.oaaf.or.jp/>

## 安藤忠雄展2025 一青春一

3/20~7/21

本展は、建築家安藤忠雄の壮大な挑戦の軌跡から、現在、未来までを展望するものです。模型やドッキングといった貴重な設計資料から、ヴァーチャルの限界に挑む映像インスタレーションなど、多彩な展示物が散りばめられた会場を巡りながら、建築という文化の豊かさと、挑戦する人生の妙を知ることとなるでしょう。

日程 3/20(木)~7/21(月)  
 会場 グラングリーン大阪  
 うめきた公園 ノースパーク【VS.】  
 HP <https://vsvs.jp/>

## 特定建築物定期調査業務「スキルアップ講習」

4/23

ストックの時代を迎え、建築物の安全性の確保のため、定期調査・検査はますます重要と

## TOSAZAI ツアー 2025

4/22~23 CPD5単位(予定)

高知・梶原の土佐材産地セミナー、産地見学ツアーを企画いたしました。

高知市にて内藤廣氏設計(土佐材を使った大スパン建築物)の牧野富太郎植物園・記念館、龍馬木材市場などを見学、梶原町に移動し隈研吾氏設計の雲の上ホテル別館に宿泊し、翌日は梶原町森林組合にて土佐材の研修、製材を見学し、梶原町の隈研吾氏設計建築群(土佐材を使った大スパン建築物)他を見学します。

行程 4/22(火) 7:30新大阪駅集合  
 新大阪→高知市→高知県梶原町  
 4/23(水) 高知県梶原町→新大阪  
 19:00新大阪駅解散(予定)

対象 土佐材を使ってくださる建築関係の方  
 土佐材の流通拡大に携わってくださる方

## 「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当:母倉

e-mail: [info@aba-osakafu.or.jp](mailto:info@aba-osakafu.or.jp)

TEL: 06-6947-1961

## 地域まちづくり委員会 東大阪の紹介

地域まちづくり委員会 東大阪地域 代表幹事 杉山和寿

「建築士の会 東大阪」は、2001年4月14日に設立された公益社団法人大阪府建築士会の地域サークルのひとつで、大阪府を12分割されたひとつです。東大阪市内勤、在住、近接地域の建築士で組織され、地域に根ざした会員の連帯や親睦を図り、研鑽を積み地域社会に貢献することを目的としています。市民参加イベントのまち歩き「わくわく探検」（平成13年より連続22回開催）、建物見学、市民向けの耐震セミナー等を開催し行政との連携、学生との協働（近畿大学）、小学校防災ワークショップの参加等の活動を行っています。

### ■東大阪市民ふれあい祭り

毎年5月の第2日曜日に開催される「市民ふれあい祭り」に「近畿大学建築学部建築研究会（KENKEN）」の学生さん達と一緒に木を使ったゲームや建築相談及びドリンク販売などで出店しています。毎年変わる屋根のデザインは今では会場のシンボスポットとして喜ばれています。2024年5月12日（日）に開催されたふれあい祭り注目の学生デザインのテントは、我が建築士会の過去の機関紙「建築人」を瓦のように屋根を葺きました。建築士が読み終えた雑誌を建築学生が読み継ぐ、継承・エコがテーマです。なお、終了後に一部の書籍は建築研究会の部室本棚に収まりました。



第45回東大阪市民ふれあい祭り



「建築士の会東大阪」幹事会の集合写真

### ■南天苑見学会

2024年8月24日（土）に開催した見学会は、大阪府河内長野市の南部、ほどなく和歌山県という奥まった地にある昭和24年創業の温泉宿「あまみ温泉南天苑」。母屋は東京駅丸の内駅舎や日本銀行本店を手がけた日本代表する建築家・辰野金吾が設計し、移築さ



南天苑見学会正面玄関

れた純和風建築の建物です。

「南天苑」の女将、山崎友起子さんに館内の客室を案内頂きました。日本の伝統や文化など「純和風」の価値を認めて下さるのは非常にありがたい、これからは建物や宿の持つ伝統的な雰囲気を守って行きたいと語っておられました。



わくわく探検弓削神社

### ■わくわく探検（駅前シリーズ）

2024年11月24日（日）に開催したわくわく探検は、JR志紀駅を出発して八尾駐屯地記念行事エアフェスタ2024の祝賀イベント、観閲飛行、アトラクションを観覧し、旧奈良街道の史跡地をめぐる約4.5kmの行程でした。陸上自衛隊 八尾駐屯地で航空機、展示品を見学し、若松博恵氏（元東大阪市教育委員会文化財課）をお招きし、八尾市の歴史に触れ中河内地方に現存する史跡地の解説を頂きました。恒例の賞品が当たるクイズも大盛況でした。

■来年度も東大阪市、及び近接地域を含め参加型イベントを開催します。引き続きご参加をお待ちしております。

## 青年女性委員会の紹介



青年女性委員長 曾我部千鶴美

令和6年度の会長所信では、社会の「今と明日・未来の夢」幸せの実現を求めて! 府民・社会から絶大な信頼が寄せられ、安心安全な環境構築等の様々な場面での参画を常に求められる建築士・会になるために!としています。青年女性委員会として活動を始めて3年が過ぎ、会長の想いを受けとめ行っている活動をご紹介します。

### ■未来応援

#### ◆建築士資格取得サポート

建築士資格取得を目指す方のために、製図課題発表からタイトなスケジュールではありますが、製図試験に即した建物の見学会を実施しています。

また、大学や専門学校、資格学校の講師がタッグを組んで、学科試験からの資格取得応援体制に取り組みようとしています。

#### ◆建築ガクチカ展

建築を学ぶ学生と企業のマッチングの場をつくります。情報ツールを活用した自己PR能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、学生の間に力をつけることを目的としています。

#### ◆まちつく

2024年に24回を迎えた親と子の都市の建築教室、通称「まちつく」は、大阪市立住まい情報センターと日本建築学会近畿支部との共催で、多くの大学生の協力を得て続けている夏休みの子どもイベントです。

#### ◆未来の子どもたちサポート

子どもたちが動けば大人も動く!を合言葉に、子どもたちに正しい知識を伝えることで、大人の認識・常識も変えることができると信じ、未来の子どもたちを応援しています。



### ■自己研鑽

#### ◆勉強会・研修

著名な建築家の話を聞きたい、また、自己研鑽を積むため、さらに、法改正や最新情報等の勉強会や研修会を多数開催しています。

#### ◆見学会

見てみたい!訪れてみたい!と思ったらメンバーのサポートを受けながら、自ら企画して見学会を実施できます。



### その他

#### ◆近畿建築士会協議会青年部会・女性部会 (近建青・近建女)

近畿2府4県の会員により構成されています。「近畿はひとつ!」を合言葉に様々な活動を行っています。

大阪府内の活動だけでなく近畿圏や全国の建築士との交流、活動にご興味のある方は是非ともご相談ください。

青年女性委員会には、あなたをアピールする場があります!また、意匠・構造・設備・工務店・不動産・行政など様々な業種が集い、交流や幅広い情報や知識を交換する場もあります。建築士という職域を広く一般にアピールするために、一般市民向けの講習会等、建築士の社会的地位向上を得るための活動も行っています。

興味のあること、知りたいこと、楽しいこと等、なんでも一緒にやってみませんか。職場の限られた人間関係だけでなく、いろいろな人との交流を楽しみながら、建築士としての知識を増やし、また、日々の仕事に役立つこともたくさん見つかると思います。困ったこと、わからないことにも気軽に相談に乗ってもらえる友人もたくさんできます。

原則、毎月第4木曜日18:30~、大阪府建築士会東会議において定例会議を行っています。一度見学に来ませんか?

待ってます!



復原・移築された「白い箱」に思う

土浦亀城邸 一九三五年竣工／二〇二四年復原・移築

文・写真 松隈洋「神奈川大学建築学部教授」

二〇二四年五月、東京都品川区上大崎に建っていた土浦亀城（一八九七〜一九九六年）の自邸が、港区南青山に復原・移築され、九月から一般公開も始まった。これは、ポーラ青山ビルディングの新築に伴い、その足元に移築場所が確保され、約三年に及ぶ調査と解体を経て、移築修理が進められてきたことの結果である。プロジェクト実現の道筋は、かつて日建設計の林昌二の下でポーラ美術館（二〇〇二年）を担当し、今回の移築

先であるポーラ青山ビルディングの設計を手がけた安田幸一によって切り開かれたに違いない。また、建築史家の藤森照信の果たした役割も大きい。藤森は、一九八六年に執筆した『生き続ける白い箱』（『昭和住宅物語』新建築社一九九〇年所収）をきっかけに土浦夫妻との交流が始まり、一九九五年の東京都指定有形文化財の指定をはじめ、夫妻の没後も、この自邸の歴史的な価値を伝え続けた。さらに、藤森の下で最晩年の土



土浦亀城邸の外観。一九九九年九月十三日撮影／兼松紘一郎。最後列から二列目に中村常子（右）と中原まり、最前列に西澤泰彦（中）、田原幸夫（左）、筆者（右）ら。

浦に接した西澤泰彦や、前川國男自邸の移築再建を担当した江戸東京たてもの園学芸員の早川典子、住宅研究者として土浦邸に通い詰め、『土浦亀城と白い家』（鹿島出版会二〇一四年）を上梓する一方、保存のための「土浦邸フレンズ」を組織した田中厚子ら、多くの関係者の地道な尽力もあった。ここでは、そんな土浦邸を見守ってきた一人として、図らずも遭遇したエピソードを書き留めておきたい。それは、一九九六年、西澤泰彦の責任編集で発行された『SD』七月号の追悼特集「再考建築家土浦亀城」に始まる。この特集では、後半のテーマとして、「土浦亀城と同時代建築家たち」が組まれ、レーモンド、遠藤新、吉田鉄郎、山口文象、谷口吉郎と共に、前川國男が取り上げられ、執筆を依頼される（『モダニズムの両義性をめぐって―土浦亀城と前川國男』『近代建築を記憶する』建築資料研究社二〇〇五年所収）。この時は、外観を視察したに過ぎなかった。幸いにも、続く一九九八年に、日本建築学会に DOCOMOMO 二〇選の選定のための対応ワーキング・グループが組織され、二〇〇〇年に開催される神奈川県立近代美術館の建築展「文化遺産としてのモダニズム建築 DOCOMOMO 二〇選」展の調査で、土浦邸を正式訪問する機会が実現する。この時、はじめてお会いしたのが、一九五五年から住み込みの家婦として土浦夫妻に仕え、長く土浦邸を守ってきた中村常子さんである。

その後、幾度となく土浦邸を同僚や学生たちと訪ねる機会にも恵まれた。子供のいなかった土浦夫妻にとって、中村さんは養女のような存在であり、中村さんもまた、実の娘のように可愛いがられたという。しかし、夫妻の没後、長年にわたる一人住まいでの維持管理は、さぞかし大変だったのだろう。そのこともあって、先に挙げた関係者と筆者は、何かにつけて土浦邸に中村さんを訪ね続けることになる。印象的だったのは、DOCOMOMO 二〇選展の撮下し撮影を担当した写真家の清水裏さんの活躍だ。展覧会終了後も足しげく通い、屋根の上の落ち葉の掃除や外壁の補修など、小まめなメンテナンスをボランティアで続けられた。そんな中で、筆者にも、中村さんとの忘れがたい出来事が続いていく。二〇〇四年の秋だったか、京都工芸繊維大学の岸和郎研究室に入室した三回生の学生の一人が、建築家の自邸を模型制作せよ、という実習課題に土浦邸を選び、資料がないか、と筆者を訪ねて来た。「図面類はない。もし本気で土浦邸の模型を制作したいなら、紹介するから現地を実測しなさい」と伝え、中村さんをお願いして実測させたのだ。現地を見たかなののらう、精巧な模型が完成する。そのため、おりしも、翌二〇〇五年に筆者がキュレーターを担当して開催された DOCOMOMO 一〇〇選展に出品することにした。驚いたのは、その後日談だ。模型を見た関係者からの要請で、東京と姉妹都市であるドイツのベルリンで開催される日本の建築を紹介する展覧会に出展されることになり、ミス・ファアン・デル・ローエのナシヨナルギャラリー（一九六八年）に展示された。こんなことが実現するのか、と思っ

た。模型は、土浦の関連資料として江戸東京博物館に収蔵される。また、二〇〇八年には、朝日新聞の神田剛記者による取材に協力し、中村さんの「わたしには、先生と奥さんが今もここにおられるような気がするんです」、「私の命の限り、ここはお守りしますが、その先はもう……」という発言が記事になる（「わが家のミカタ 夫妻が託した「箱の家」『朝日新聞』二〇〇八年十二月二日）。そして、二〇一三年には、筆者が聞き手となり、「土浦亀城邸を住み継いで」と題された中村さんへの貴重なロングインタビュー（『住宅建築』二〇一三年二月号）も実現する。いずれも土浦邸を一人守る中村さんを少しでも励ますことが出来たら、と思つてのことだった。でも、ある日を境に、何もできなくなつた。偶然にも二人きりとなつた土浦邸のリビングで、中村さんがふと、「この家を守りたいと思つてきたけれど、実は愛憎半ばなんです。私にも若いころに結婚話があつたんです。でも、土浦夫妻に止められて、諦めたんです」と口にしたのだ。個人住宅の建築的、歴史的な価値を守ることの難しさ、結果的に中村さんが一人で背負つてこられたものの大きさに、言葉が出なかつた。訪れるたびに心こもつたおもてなしをされる中村さんにとって、土浦邸は生きがいであつたに違いない。しかし、気がつけば、中村さんと話を交わすのはいつも筆者だけで、他の人たちは建物を夢中で撮影していることが多かった。中村さんはそんな光景をどんな思いで見ているのだろうか。その日から一〇余年が過ぎたのだろうか。今回見事に復原された中村さんの居ない土浦邸を訪ねる勇気をいまだに持てないでいる。



## 【oiya (オイヤ)】

野水瓦産業株式会社  
御原特殊瓦株式会社  
株式会社タツミ

<https://www.oiya.jp/>

取材：橋本頼幸／建築情報部門委員



## 淡路瓦イズム



野水瓦産業（株）・御原特殊瓦（株）・（株）タツミの淡路島窯元3社のプロジェクトが立ち上がった。土と共生するために。

淡路島出身の著名プロダクトデザイナーである倉本仁氏とコラボレートして『oiya』プロジェクトがスタートした。

2021年夏、コロナ禍で発表会の開催が難しいなか、東京西麻布のカリモク・コモンズ東京で『oiya』の作品発表会を開催。

土は太古からの記憶を積層している。その土に新たな形と役割を与えること。それが『oiya』の目指すところ。

瓦製造技術は約400年前に淡路島に伝えられたと言われている。良質な粘土と海上交通、京都・奈良・大阪での瓦需要などの地理的条件が重なり、淡路瓦は日本三大産地のひとつとして発展してきた。しかし、現代の都市や生活空間には土を感じることは少なくなった。土の素朴さ、力強さ、柔らかさ、土が持つちからを改めて感じてもらいたい。淡路瓦にかかわる人たちはそれを強調する。

屋根材としての瓦の販売量は激減した。瓦事業にかかわる会社や人々も最盛期の1/4まで減っている。瓦が現代建築で使われなくなったことに、後継者不足も追い打ちをかける。

現代建築において使われるタイルは国内で製造するところは少ないという。瓦は小ロットから、かつお客さんのニーズに合わせたものも作れる。タイルでできないことをできるのが瓦の良さ。野水専務はそう強調する。

『oiya』プロジェクトの3社は、それぞれ特徴を持つ。（株）タツミは鬼瓦や飾り瓦などを作る職人「鬼師（鬼瓦職人）」が一つ一つ手作り製作を得意とする。御原特殊瓦（株）は土を知り尽くし、特殊な瓦の成形・焼成を得意とする。野水瓦産業（株）は手仕事から最新技術を駆使した多種多様な瓦を製造する。この3社が集まったからできたプロジェクトである。

語源は、北欧で『島』を意味する「øy」に由来。出来あがった製品そのものだけでなく、島の産土（うぶすな）を意識し、次の時代に残す新しい「もの」づくり。

『oiya』の製品は、外壁材と家具の約20種類。野水専務はこれまでいくつか納入実績ができて、徐々に広がってきている実感を感じている。しかし、家具は一つ一つ手作りで大量生産にむかない。海外進出も視野に入れてホームページは英語と日本語の併記している。アジアのみならず、ヨーロッパ、アメリカにも出荷を考えるが、輸送に時間を要する。様々な困難にぶつかりながらも、土の良さを前面に出した商品の開発を続ける。瓦のデザイン性の高さを店舗内装などにも使ってもらいたい。

長年培われた伝統と時代に合わせて挑戦する心意気が新しい化学反応を起こすだろう。

### ■淡路瓦のお問い合わせ先

淡路瓦工業組合

兵庫県南あわじ市湊 134

Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030

info@a-kawara.jp

<http://www.a-kawara.jp/>



アクティビティに応じた天井高さを設定した連続する三角屋根



ウチとソトが混じり合う外広場